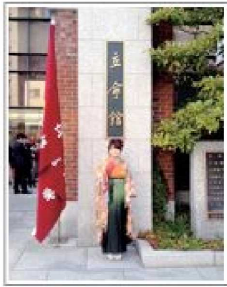


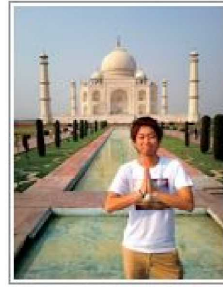
新幹事のご紹介

幹事 二宮侑香 (5期生)



初めまして。この度5期生の幹事を努めさせて頂くことになりました、二宮侑香です。もともと少人数の研究科ではありますが、今年5期生が校友として入り約200名を超える大きな規模の校友会になりました。卒業年次を超えた交流、親睦できる場をサポートできればと思っています。校友会の発展と母校の発展に寄与できるよう、頑張っていきます。これから宜しくお願い致します。

幹事 初井隆宏 (5期生)



校友会5期生幹事を務めさせて頂くことになりました初井隆宏と申します。ひっそりと院生生活を送っていたので、まさか幹事をするとは思っていませんでしたが、やるとなったからにはみなさん修了生同士のつながりが強く、親しみやすい校友会にしていくなればと思います。趣味は登山と海外旅行です。よろしくお願いたします。

長濱人語

皆さんは伝統についてどう思いますか。広辞苑によると伝統とは人間の行動、発言、思考及び慣習に見いだされる歴史的存在感の総称かまたは、人間の生存・生活の中に長い歴史を通して表される種々の慣習や形式、価値観を総体的に指し、狭義には個々の集団が個別に有する慣習、形式、価値観を指すものだそうです。伝統はまた、それまでの歴史の中で形成されて来た種々の形態の中から、特に重んじて次世代に継承すべきものに対する精神的な立場を指すこともあります。そこで、今回は古今伝授の話をしたしたいと思います。「古今伝授」というのは、古今集の解釈を中心に、歌学や関連分野の諸学説を、口伝・切紙・抄物によって、師から弟子へ秘説相承の形で伝授することです。古今和歌集は、延喜5年(905)に紀貫之ら4人の撰者が醍醐天皇の勅命を受けて撰進した日本最初の勅撰和歌集で、平安朝文学の古典として代々の歌人に尊重され、作歌の手本となりました。しかし、成立後100年以上もたつと、歌の本文や解釈について疑義が生じ、各人各派の注釈が行われ始めます。もともと古今和歌集の解釈は、それを家職としていた二条家の秘事として代々継承されていました。その後二条家は断絶してしましますが、その教えを受けた者たちによって受け継がれていきました。そして、室町時代中期に東常縁が登場します。東常縁は、藤原為家より受けた二条流の東家代々の享受とともに、正徹・亮孝といった当時を代表とする歌人に学び、切紙による伝授方法を取り入れて、連歌師の宗祇に伝授しました。そして宗祇以降切紙を中核とする古今伝授が確立され受け継がれていきました。ここで古今伝授に関して有名なエピソードを紹介します。慶長5年(1600)7月18日丹後国田辺城は、西軍1万5千の軍勢に包囲されていました。城を守るのは、古今伝授の継承者として名の知れた細川幽斎。その幽斎側の兵はわずかに5百ほどにすぎません。戦力差は大きく田辺城は風前の灯でした。そこで、幽斎の弟子の一人だった八条宮智仁親王は7月と8月の2度にわたって講和を働きかけましたが、幽斎はこれを謝絶して籠城戦を継続し、使者を通じて『古今集証明状』を八条宮に贈り、『源氏抄』と『二十一代和歌集』を朝廷に献上しました。ついに八条宮が兄・後陽成天皇に奏請したことにより勅使が城に下され、関ヶ原の戦いの2日前の9月13日、勅命による講和が結ばれました。幽斎は2ヶ月に及ぶ籠城戦を終えて9月18日に城を明け渡しました。もし幽斎が死んでしまったら古今伝授が絶えてしまい、和歌の歴史にとっても大きな損失となると考えられたからこそ、天皇をも動かさせたのです。

このように伝統を守り代々継承していくことは、自分の代で途絶えさせることはできないという大きな責任とプレッシャーも伴うものなので、それだけ価値あるものだと思います。私自身がそのような立場になったらと思うとあまり自信はないですが……。それでは最後にこの方に聞いてみましょう。「具志堅さん、高校の伝統(デントウ)はなんですか?」「ナショナル!」

北村篤司のお仕事探訪

みなさまお久しぶりです。卒業生の現在をレポートする「お仕事探訪」のコーナーです。

今回、登場いただくのは、公務研究科2期生の岡本祐太さんです。岡本さんは、現在、厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室政策第2係に所属し、各種会議や税制関係の窓口として、省内の部局との調整・とりまとめをされています。相手に分かりやすく的確に伝えることは、仕事の基礎であり、これからの行政に求められていることでもあると考える、岡本さんにとって、公務研究科時代一番印象に残っていることを尋ねると、ゼミの輪読の授業で、先生から、説明ペーパーがわかりづらいと指摘されたことという答えが返ってきました。輪読の内容説明に4~5枚も資料を作成し、力作と考えていたにもかかわらず『これじゃあ、読んでももらえない。うちの師匠だったらゴミ箱行きだよ。』と指摘されてしまい、「次はリベンジします」と答え、みごと次の輪読の際に誉めていただくことができたことを今でも覚えているそうです。その経験を生かし、現在の業務である、経済財政諮問会議の厚生労働省関係施策のとりまとめや消費税転嫁対策特措法(通称)の施行準備、税制改正要望のとりまとめ等に日々奮闘されています。時には、説明の難しい案件や新規の案件について、整理ペーパーを作成することを求められることもあります。公務研究科で学んだことを振り返りつつ、一つ一つの仕事をしっかりやっていきたいと抱負を語っていただきました。

Here is a nostalgic Smile

第3回 総会のご案内

2013年9月14日（土）
第1部 第3回総会 午後3時～
第2部 懇親会 午後4時～

終身会費納入のお願い

終身会費の納入はインターネットでの振込が便利です。

校友会の各事業は、会員の皆様からの終身会費（10,000円）によって支えられています。校友会活動を安定的に展開、発展させていくために、終身会費の納入にご協力ください。

【振込先】

京都銀行 二条駅前支店 普通預金 1024124

口座名義 立命館大学公務研究科校友会 事務幹事 高見澤篤

- ・お振込の際、振込人氏名の前に入学年度を西暦でつけてください。（例：2007コウム タロウ）
- ・振込手数料はご負担ください。

なお、納入いただいた方には記念品をお送りしております。

rippo@st.ritsumei.ac.jpまでご一報ください。

※インターネットでの振込みには、口座を開設している銀行に「インターネットバンキング」の申込が必要です。申込は各銀行のホームページから可能です。

現住所報告のお願い

幹事会では、会報や総会・懇親会のご案内を会員の皆様のお手元に確実にお届けするため、現在、現住所確認の取り組みを進めています。現在の登録住所が現住所、帰省先の如何に関わらず、一度下記宛、現住所の報告をお願いします。（お名前も忘れずに記載してください。）

報告先：rippo@st.ritsumei.ac.jp

編集後記

暑い日が続いています。みなさん体調崩さぬよう、お気をつけください。さて、個人的なお話ですが、公務研究科を卒業して2年以上経ちました。二条にはめっきり行かなくなりましたが、この校友会活動の関係で、年に数回は二条に足を運ぶ機会をいただいています。先日、幹事会後に晩ご飯がてら二条を散策しましたが、カフェなど新しいお店ができており、とても新鮮でした。みなさんも時々、二条を散策してみてもはいかがでしょうか。懐かしい友達や先生方とも出会えるかもしれません。

公務研究科 3期生 川勝啓佑

次回の会報はWed版での掲載予定です。

詳細は公務研究科校友会ホームページをご覧ください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/gssp/rippo/>